二国間交流事業 セミナー報告書

令和5年3月31日

独立行政法人日本学術振興会理事長 殿

[日本側代表者所属機関・部局]
国立研究開発法人国立国際医療研究センター・臨床研究センター/国立看護大学校
[職・氏名]
室長/特任教授・宋 培培
[課題番号]
JPJSBP220217404

1. 事業名 相手国: 中国 (振興会対応機関: NSFC) とのセミナー

2. セミナー名

(和文) 高齢者向け統合医療・看護支援システム・データベース構築に向けた日中合同セミナー

(英文) Japan-China Joint Seminar for novel development of the integrated medical and nursing support system and database for the elderly

3. 開催期間 令和5年 2月 15日 ~ 令和5年 2月 17日 (3 日間)

4. 開催地(都市名)

東京都(Tokyo)

5. 相手国側代表者(所属機関名・職名・氏名【全て英文】)

Shanghai Jiao Tong University School of Medicine, Xinhua Hospital・Nursing Director,
Professor・Liping JIANG

6. 委託費総額(返還額を除く) 1,140,000 円

7. セミナー参加者数(代表者を含む)

	参加者数	うち、本委託費で渡航費または日本滞在費を負担した場合*
日本側参加者等	22名	1名
相手国側参加者等	26名	2名

参加者リスト(様式B2)の合計人数を記入してください。該当がない箇所は「0」または「-」を記入してください。

* 日本開催の場合は相手国側参加者等の日本での滞在費等を負担した場合、相手国開催の場合は日本側参加者等の渡航費を委託費で負担した場合に記入してください。

8. セミナーの概要・成果等

- (1) セミナー概要(セミナーの目的・実施状況。第三国からの参加者(基調・招待講演者等)が含まれる場合はその役割とセミナーへの効果を記載してください。関連行事(レセプション、見学(エクスカーション)その他会合(別経費の場合はその旨を明記。))などがあれば、それも記載してください。各費目における増減が委託費総額の50%に相当する額を超える変更があった場合には、その変更理由と費目の内訳を変更しても計画の遂行に支障がないと考えた理由を記載してください。)

日中二国間共同研究体制として「統合ケア実現のための高齢者の継続的な健康評価・健康ニーズ収集・心理面・社会的活動の実現・サポート」に関連した各研究機関の研究成果の共有・支援システム及びデータベース、システム実現のため情報共有、組織発起を目的として、本セミナーを開催した。セミナーは3日間開催され、1日目では高齢者向け医療に関して医療と看護の2側面から各研究機関・参加研究員の研究内容について発表・共有を行った。2日目ではパネルディスカッションを交えつつ、支援システム及びデータベース、システム実現のため情報共有を行い、最終日には今後の研究体制や高齢者向け支援システムの詳細について検討を行った。

また、国内旅費に関する予算の増減が委託費総額の50%を超えて変更を行った。これは新型コロナ流行の影響がまだ継続しており、中国から来日しての参加者が計画よりも減少したためである。来日が難しいため、東京でのセミナー開催と同時に ZOOM を利用したオンライン会議によって中国からインターネット経由での参加を実現した。また、この会議内容は中国側の配信サービスの協力を得て中継を行った。これらのオンライン会議及び中継のサポートの委託のためその他費用が増加した。

- (2) 学術的価値(セミナーにより得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)

セミナーを通じて、日中のそれぞれが有する高齢者向けの医療知見やシステムの知見を共有や、近年注目されている AI 技術の紹介を通じて、超高齢化における高齢者向け医療・看護システム、データベースの要件が明らかとなった。これにより、システム実現に向けた日中での共同研究の実現や最新技術の AI を医療システムに取り組んだより革新的なシステムへの発展につながる。

- (3) 相手国との交流(両国の研究者が協力してセミナーを開催することによって得られた成果)

中国との交流を通じて、将来的に超高齢化が進む中国が懸念している高齢化社会における医療システムの問題点を得ることができた。また、中国はすでに超高齢化が進み最先端で高齢化医療・看護に対応している日本の現状について知見を得ることができた。

- (4) 社会的貢献(社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献はどのようにあったか)

超高齢化社会に於ける医療・看護がともに課題となる日本と中国が、それぞれ別の立場(一方は今現在超高齢化社会の渦中で、一方は将来的に高齢化が進み、高齢者数が一気に増加する)においてそれぞれの問題に対する価値観や視点を共有することができた。これにより日中の立場を改めて継承し、今後の研究

の発展につながる。

(5) 若手研究者養成への貢献(若手研究者養成への取組、成果)

工学系 AI、医療・看護の若手研究者の研究発表及び積極的な意見交換によって、単純に大きなセミナーへの発表経験の提供だけでなく、次世代に続く国際的な交流の場の提供を実現できた。これらの経験は将来を担う若手研究者の見識を広げることに寄与するだけでなく、今後の日中の共同研究や情報交換の基盤になる。

(6) 将来発展可能性(本事業を実施したことにより、今後どのような発展の可能性が認められるか)

本セミナーにて日本と中国の超高齢化社会における医療システムの認識・課題を共有したことで、超高齢化社会の医療・看護に関する支援システムに構築に向けた共同研究への発展につながる

(7) その他(上記(2)～(6) 以外に得られた成果(論文発表等含む)があれば記載してください)

本セミナーでは現地でのセミナー開催と同時に ZOOM 利用による Web セミナーを行った。更にそれに合わせて中国のメディアと連携しセミナーの映像を中国のテレビ・配信を通じてリアルタイムで発信された。これは本セミナー内で共有・検討された研究について注目を集める機会に貢献した。